

国際医療福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（赤坂心理・医療福祉マネジメント学部）

自己点検・評価結果

（2026年6月17日教務統括委員会、2026年6月18日自己点検・自己評価委員会 報告）

（応用基礎レベルプログラム概要）

本学は、2024年度から各学部において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に関連する授業科目を開講し、数理・データサイエンス・AI教育の充実を図っています。応用基礎レベルの関連科目では、統計学と情報工学を融合した実践的な教育を実施し、医療福祉分野をはじめとする多様な分野において、数理・データサイエンス・AIの知識と技術を活用できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するため、社会的需要や動向を把握し、その内容をプログラムに反映させるべく、学生および産業界からの意見を踏まえた自己点検・評価を実施しています。

※本プログラムは、2025年8月に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」において、文部科学大臣の認定を受けています（認定期限:2030年3月31日まで）。

なお、自己点検・評価項目については、当該認定制度における申請項目に準じて設定しています。

（自己点検・評価内容）

【対象期間:2025年4月1日～2026年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価
学内からの視点	プログラムの履修・修得状況	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部における2025年度の履修者数は12名、修了者数は4名であった。これにより、2024年度以降の履修者数の累計は24名、修了者数の累計は9名となり、修了率は38％である。本プログラムは、2023年度以降に入学したすべての学生が履修可能であることから、今後も履修者数および修了者数の増加が見込まれる。なお、応用基礎レベルの構成科目は2つとも選択科目であることから、一方の科目のみの履修でとどめている学生も見受けられる。このため、修了要件の周知を継続的に行うとともに、学修意義や学修成果について丁寧に説明し、履修の促進を図ることが必要である。 以上を踏まえ、本項目に関する現状の取組については、さらなる改善が必要であると判断する。	C
	学修成果	本プログラムの修了認定は、「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」および「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」の両科目の単位修得を要件として行っている。2025年度に開講した各科目の成績評価の分布は以下のとおりである。 ●医療データサイエンスⅠ：S評価0％、A評価73％、B評価18％、C評価9％、D評価0％ ●医療データサイエンスⅡ：S評価40％、A評価40％、B評価0％、C評価0％、D評価20％ 医療データサイエンスⅠでは、A評価が73％と最も高い割合を占めており、B評価およびC評価も含め、すべての履修者が単位を修得している。また、医療データサイエンスⅡでは、S評価およびA評価を合わせた割合が80％となっており、多くの履修者が良好な成績を収めて単位を修得している。D評価は20％であるが、履修者数は5名と少数であるため、実人数では1名に相当する。 以上のことから、両科目ともに履修者の多くが所定の学修目標に到達しており、成績評価の妥当性は確保されていると考えられる。また、成績分布に極端な偏在は見られず、適切な学修難易度の下で、概ね安定した授業運営が行われているといえる。これらを踏まえ、本項目に関しては一定の水準に達していると評価する。	B
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	授業アンケートにより、学生による授業内容の評価を把握している。応用基礎レベルの構成科目においては、いずれも授業内容に関する項目で「優れている」「適切である」との回答が大部分を占めていた。また、学修成果の項目で述べたとおり、いずれの科目においても履修者の8割以上が単位を修得している。これらの結果を踏まえると、多くの学生が授業内容を概ね理解しているものと評価できる。	B

（自己点検・評価内容）

【対象期間:2025年4月1日～2026年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価
学内からの視点 (続き)	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	学年末にプログラム履修者を対象として、後輩等他の学生への教育プログラムの推奨度を確認するアンケートを実施している。今年度はアンケートの選択肢を見直した結果、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は83%（前年度比+24pt）であった。教育プログラムを他の学生に推奨したいとする回答が8割強を占めており、多くの学生から本プログラムが肯定的に評価されていることがうかがえる。 以上を踏まえて、今年度は本項目に関しては一定の成果が得られたと判断する。	B
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの履修率は5%（前年度比+2pt）に向上したものの、依然として低い水準にとどまっていることから、現時点では十分な水準に達しているとはいえず、改善が必要であると判断する。応用基礎レベルの構成科目はいずれも選択科目であるため、学生への継続的な履修案内に加え、学修の意義やプログラム修了により身に付く能力を分かりやすく発信し、履修者数および履修率の向上を図っていく。	C
学外からの視点	教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2024年度に開始したため、現時点では修了生はすべて在学中の学生である。2027年度に第1期修了生が卒業予定であることから、2028年度以降にアンケート等を通じて、修了生の活躍状況や企業等からの評価を把握する予定である。	N
	産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	公益財団法人とデータ提供に関する協定を締結し、そのデータを関連科目の演習教材として利用している。これに加え、毎年、自己点検・自己評価委員会において学外委員から意見を聴取し、その内容を数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG（以下「検討WG」）にて共有している。また、2024年度から医療福祉分野データサイエンス教育ワークショップを主催し、学内外の参加者から幅広く意見を収集している。今年度は第2回目の開催となり、学内外から約70名の参加があった。 以上のとおり、外部の視点を含めた意見を収集する体制の強化を進めるとともに、それらの意見を授業科目の見直し等に活用する体制も整いつつあることから、今年度は一定の成果が得られたと判断する。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」 「学ぶことの意義」を理解させる取組等		学期末に全授業科目を対象とした授業アンケートを実施し、学生による教育内容の満足度を把握している。応用基礎レベルの構成科目である「医療データサイエンスⅠ」および「医療データサイエンスⅡ」では、いずれも「授業の総合的な満足度」の項目において「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が80%を超えており、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを実感できる授業が提供されているといえる。一方、学年末に実施したプログラム履修者向けのアンケートでは、9割弱の学生が数理・データサイエンス・AIを学修することの必要性を認識しているものの、応用基礎レベルまでの学修を必要とする回答は2割強にとどまっていたことから、今後さらに本教育の学修意義を説明していく必要があると考えられる。 以上より、学ぶ楽しさを伝える取組として一定の成果は認められるが、学ぶことの意義、とりわけ応用基礎レベルまで学修する必要性を理解させる取組としては、今後さらなる工夫が必要であると判断する。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とする取組等		検討WGにおいて、キャンパスの枠を超えた教員間の意見交換や、授業教材・シラバス・アンケート集計結果等の共有を行っている。これらの取組を通じて、学生にとってより分かりやすい授業の実現を目指し、授業内容および教育方法の継続的な点検・改善を実施している。	B

（評価基準） A：十分な水準・成果がある、B：ある程度の水準・成果がある、C：改善が必要である、N：現時点では判断できない

作成：数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ

応用基礎レベルプログラムの履修・修得状況

(2025年度時点)

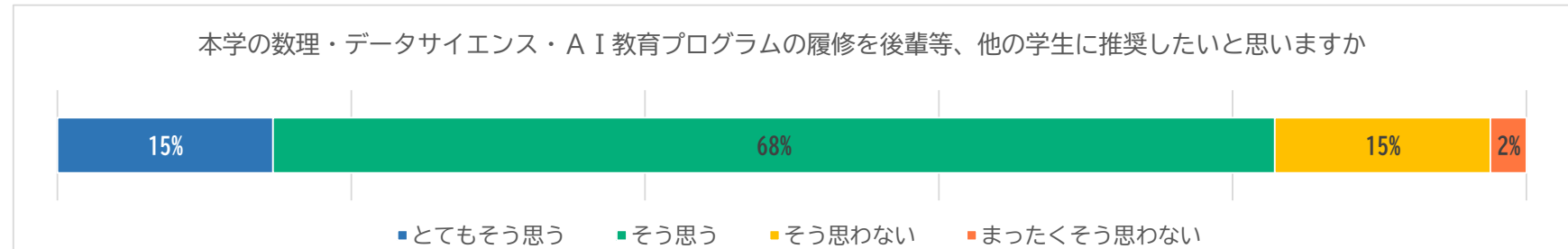
学部・学科名称	収容定員	2024年度		2025年度		履修者数 合計	履修率	修了者数 合計	修了率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数				
保健医療学部	2,220	0	0	0	0	0	0%	0	0%
医療福祉学部	570	0	0	1	1	1	0%	1	100%
薬学部	1,080	0	0	3	3	3	0%	3	100%
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	480	12	5	12	4	24	5%	9	38%
医学部	840			8	4	8	1%	4	50%
成田看護学部	400	1	0	0	0	1	0%	0	0%
成田保健医療学部	1,160	3	0	0	0	3	0%	0	0%
成田薬学部	240			0	0	0	0%	0	0%
小田原保健医療学部	800	0	0	0	0	0	0%	0	0%
福岡保健医療学部	880	9	0	23	0	32	4%	0	0%
福岡薬学部	720	0	0	0	0	0	0%	0	0%
合 計	9,390	25	5	47	12	72	1%	17	24%

※履修者数は、当該年度に初めてプログラム構成科目を1科目以上履修した人数を記載

※修了者数は、当該年度に全てのプログラム構成科目の単位を取得した人数を記載

後輩等他の学生への推奨度に関する調査

(2025年度履修者対象)



学修の必要性に関する調査

(2025年度履修者対象)

